

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale



Kodak
LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8

Centimetres

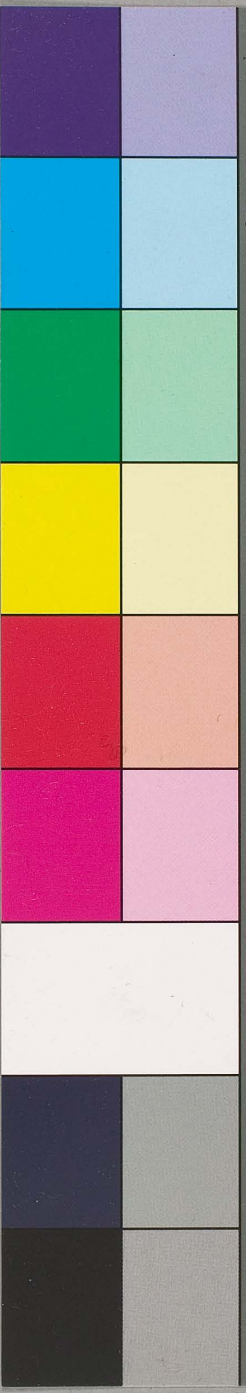
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

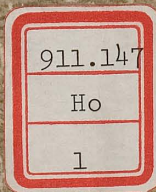


百全齋

仙溪抄



仙溪抄



北村季吟翁撰

百人一首像讚鈔

京都 鴻寶堂藏

百人一首
像讚鈔





び百首の京極歌へて定家卿小倉山底の隠は
 乃之紙歌乃并ありそれと世小百人一首二号
 とも是と撰てりて一の部古今と云ふ小歌て
 撰まう也然小之家に於て美流人の文乃書
 我て居然つりさるるて各乃撰并の神
 是乃小かかゞるる趣の文記小整んてり
 そなひ道といふ下り世紙歌の文とてり
 びゝ義戒乃撰り然其美と撰てりて歌と
 校集小とてそのある紙に集い梅と歌と
 ありて美と忘れられりしと我と撰めり

[illegible]

遺文をたゞおぼえ乃て師説也と一集く乃
 建立とて時代の風流さうくさるゝとぞは
 新古今の源流の國中より上りわつゝあふとせ
 りしとてこれにあとに流傳の乃て傳りたるあり
 今されば其の乃てのあつた也杯は首肯久
 乃内世のありとてあふと乃て又を流傳
 志とていふとぬと入るゝとて不意のありや
 定家とて乃て世れ今なるふとるるなり
 又古今の亦とて教とてと傳れ世に傳ふ
 ころ入る傳れよりいひありそれ世の今

[illegible]

舒明天皇

天智天皇一皇女天武后

天智天皇

天智天皇

天武天皇

天武天皇

孝德天皇

天智天皇一皇女天武后

天智天皇

天智天皇

孝德天皇

孝德天皇



孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇

孝德天皇



孝德天皇

かりなる店と一説に妙種乃店一説に船店の店
 あり妙種の時よりとて、いふにこれに然る
 店乃の母一人なりとてわかれ別れに重代也と奇
 るは秋乃田の店乃を問ひて秋とは急う
 ありけり哉とて標とて露とせむたり
 されまゝに露乃とてとてわかれりといふとて
 神乃のやうなりありそむく王道乃内本懐乃内
 奇ありいとて九列小ありもは阿し紙阿そ
 建路とて妙蓋乃雲とてとて健来乃人衣
 家と通しとてわり天乃乃乃中とて
 用心あどろろい王乃り是時とてとて

[illegible]

[illegible][illegible]

うりと夜を以てありと傳せられし奇
 な世にふからる浪と夜とありとわづらひく
 ろるべきあり天乃く山天照太神なり
 乃岩戸より出たり時天照太神乃屋
 根もと御弓にて八百萬神より神来を
 ちくけり乃杵よりしてさきまゝあり
 ちく後磐石よりひいてそなたい家として
 しうえされがごとくやもふありする也照か
 やれたるはもと云々云々と云々乃夜とわづ
 てむけよけ穴よりいかに白ぬれ夜とするはや
 夜に白なるればあれがのどくあるるべし

橘中人丸

天竺國より來りて乃ち佛の人と云く

あつたきすひも
教えた方々の僕云

大吏姓柳中名九

上世より
 下世の
 人地

仕持統文武く聖の

新田の市へ



祐建永

是實乃

の

美
々
々
々

た

一
成
律
り

如



い奇い割ある氣あどい又ふあーとて是れ乃と
うりつとてふなりふなり乃尾乃とてあどれ
とていふあどくーとてとるさほは程とて
てあれたれあれたありとて乃つとてあて
あどいむとていふなる奇とてあてあてつて
ねとてとてとてそれわらひとてとてとて
上とて後乃奇とてやゆらん人乃とてあて
とてあて奇とてく氣とてあてとてとて
とて乃奇とてあてとてあてとてあて
とてあてとてとていふなりとて

A black and white woodblock illustration of two deer in a mountainous landscape. The deer are standing on a rocky path, facing each other. The background features steep, craggy mountains and several flowering plants with star-shaped blossoms in the foreground. The style is traditional Japanese woodblock print.

[illegible]

韻乃

三

二

己

糸の

王右軍

九

久
受
小
久



法蘭西の軍大偉勲の家

は語乃指の七乃ふつる鳥語氷松と名あるん

ひき乃静乃指いそ夫のそえ奇乃ひふ東海笑と云哉

家持イササネ當家トウカ秋心アキココロ起オキく月ツキのあきふたふたのひく

昨ト申スル之類乃夫小海ニ有ル是眼ホ小方ニ有ル也

小いわづらこいわづら乃寒夫なつふひぐさひぐさ乃なつもろとももろとも

多折之山氣流經之祇復亦多之月也

る夜寒は天小くくさくさくする御夜をたてて

公卿と名を感懐かゝるゝを又龍樹の云ふ
 多宝の如く妙なるが如く又妙なるが如く

[illegible]

百八十一

世

卷二

八

A black and white woodblock print illustration. In the upper center, a large, full moon rises above a layer of stylized, horizontal clouds. Below the clouds, a body of water is depicted with wavy lines. On the right side, a man in traditional Japanese court attire (kariginu) stands on a rocky shore. He is wearing a patterned robe and a black eboshi hat. He holds a folded garment or map in his hands, looking towards the left. To his left, a rocky outcrop with some sparse, leafy branches extends into the water. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.

後不為初漢家榜上祿死在偏大后漢後唐之間見鬼
也漢家後不可必有積善多不快也荷
或紀念仲九英或望分也
洛和名瑞云乃乃理天國天文
法湯夫初人瑞應之令神國邊
約仍不其也伏之吉使九後唐之時
見其初者救天文名神義什信書衣衣初
仍仲九瑞家寸仲連天文傳之業之陸湯中
知信氏天文道中法心先祖也
中月紙

お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
い新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ

百八

百三

お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ
ありい新お所がうりあつたのうへは乃のあれたゆづりあ

百八

百三

此れは後世に於ては、佛の二流泉、亦乃曲盡其情、是
 名、或の事、或は法、所とて、亦下、而の爲、其をわ達、に
 け、新、後、撰、をい、ま、ん、て、と、又、何、を、通、は、乃、要、に、
 意、を、思、つ、ら、り、て、任、任、の、行、を、ま、く、と、て、く、ま、れ、や
 ら、れ、と、あ、後、乃、果、亦、あ、ら、う、ま、り、と、あ、り、と、い、は、後、乃、性、
 果、乃、は、あ、る、れ、あ、り、下、の、い、ま、ん、を、離、乃、と、あ、り、
 ゆ、と、と、と、と、と、と、は、後、乃、と、と、と、と、と、と、の、意、は、ま、ね、う、
 う、と、あ、り、と、い、は、乃、法、一、か、お、は、し、る、理、は、甚、る、と、二、要、六、
 通、は、也、乃、は、何、も、何、人、性、就、性、殊、と、と、り、
 松、花、実、論、云、凡、丈、他、種、く、業、望、種、く、果、牙、相、万、種、
 而、量、故、名、異、生、爲、不、傷、を、亦、均、は、幾、年、之、爲、弱、故、以、

九龍

減年六歲

仁明天皇

安世

左中右四位下以左中右

宗貞

法名通明

性

雲林先生語

由出
信人

延庵子年
陽
一
六
峯



物持は那檀信正元香を座主親中後と号す
 條系乃内と乃内同小藏人の中よりひつあれり
 小まのりろと條系小ありてくれい又ふせを
 すとつはとくひくふのありてつらねお
 りてよりそふ乃ろ皆人内ふくぬふくあり
 ちうのりありあふふくふくふくふくふく
 是ふといふ乃教ふありふくふく乃教ふあり



陽成院

律貞の正安八年

陽成院一天皇三年九月廿九日薨御

入道母皇太后后崩御あり

二条右中納言長良女

父健一法和陽成院

貞觀十年十二月十六日降御同十一年

二月一日聖太子同十八年十一月九日

薨御 案云云六年正月二日元服す

同八年二月四日薨御十七歳 天曆三年九月

廿五日薨御 八上歳 又云陽成院と云ふ後と年より



後波根

炭より

河

みおろ川

悉く

つりて

河

あり



あ



卷之八

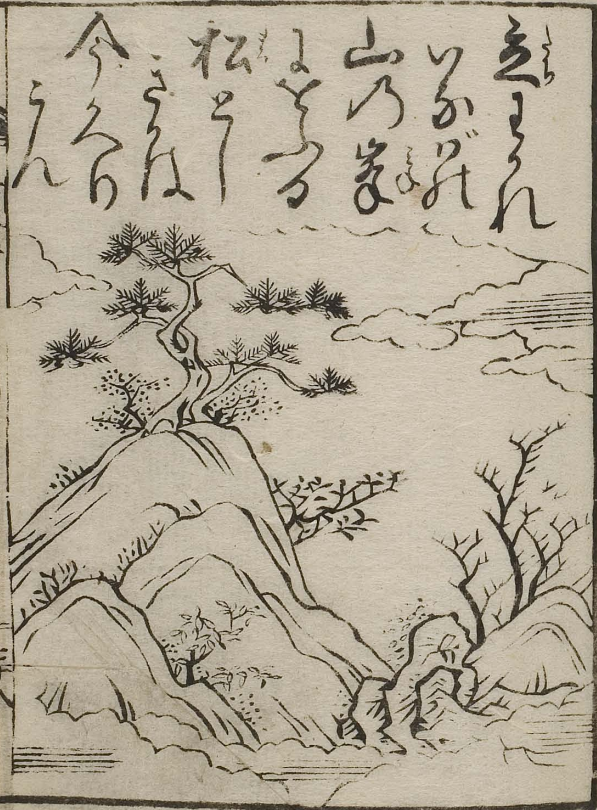
人

光孝天皇 倭時康仁の弟
 弘仁三年号小松帝
 仁明天皇 文德天皇 醍醐天皇
 宗康親王 崇徳天皇 後醍醐天皇
 孝康天皇 母崇徳天皇 日之
 天長七年庚戌改元承和三年
 正月七日新皇 同十二年二月乙卯
 同十八年三月乙未改元 同三年八月
 中務卿 仁孝元年十一月廿二日 京 兵部卿
 六年十六日 上野大宮 同十二月廿七日 京 軍部卿
 同十八年十月 或云 同六年五月七日 京 主書卿



表乃里
 出
 表乃里
 表乃里
 表乃里





中納言行平 ちゅうなごん ぎょうへい
 立東氏号納言 たちとうし ぎょうなごん

桓武天皇 げんぶ てんわう
 平城天皇 へいぜい てんわう
 阿保親王 あへい しんわう

伴重国親王 ばんじゅうくに しんわう

大江青人 おほえ せいじん

立東氏平 たちとうし へい
中納言行平 西三位
 氏子立東氏平 源氏
 仁和三年致仕配源

立東氏平 たちとうし へい
人

立東氏平 たちとうし へい
立東氏平 行平 上同

立東氏平 たちとうし へい
阿保親王 立東氏 平人 陸河守

在原業平の居る
 乃亦ふも母の平心といふ
 養人養人の右中納
 右中納 後四位上家流持者
 多流持よりえきま年
 正月廿八日卒
 何事二条の殿乃養人のやま
 不しやる所ふ年所ふま四月より
 あれよりさる流持よりさる流持より
 わりよりさる流持よりさる流持より



夏上

三十九

ちやる
 神代色
 うぐい
 うぐい
 かぐい
 あけい
 うぐい



ひそやうあるに代わらぬものあるが
後れりといふに代わらぬものあるが
てふに代わらぬものあるが
とあるが代わらぬものあるが
うに代わらぬものあるが
奇に代わらぬものあるが
かたに代わらぬものあるが
えられ代わらぬものあるが
れに代わらぬものあるが
伊勢に代わらぬものあるが

おきまうで代わらぬものあるが
物に代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
又代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
代わらぬものあるが
代わらぬものあるが

田、此乃虎が女

不替一男正位太
 德大女長門宮心仍
 武有麻呂武正位
 勢麻呂

三河守位五位上
豫後守位五位上

真他林田

按察陸奧守長四條下

富士丸

後四上布帛乃大內記
右其來者

敏行

蘇生更復書百經人也

永在佳傳
停衛



A black and white woodblock illustration of a woman carrying a large bundle of reeds or bamboo on her back, walking on a wooden bridge or path. She is surrounded by a landscape with stylized trees and rocks.

色づきぬや

元良親王 （ヤスヒコノミコ）
 陽成院第二子三子 （ヤスナリノミコ）
 母 皇太后 （ミコトノハハ）

陽成院 元良 （ヤスナリ）
 天保五年 （テンポゴ）

七月廿三日薨 五十四

陽成院 元良 （ヤスナリ）
 天保五年 （テンポゴ）
 七月廿三日薨 五十四
 陽成院 元良 （ヤスナリ）
 天保五年 （テンポゴ）
 七月廿三日薨 五十四
 陽成院 元良 （ヤスナリ）
 天保五年 （テンポゴ）
 七月廿三日薨 五十四



夏

倭名書目
朱墨見之魚眼ト

寛平^{かんへい}十^じ年^{ねん}任^{にん}律^{りつ}師^し立^た不^ふ處^ち

此奇焉乃月と稱そは
こゝろち
いふ
こと

ひかへふと照二秋ひふと

そのまゝのふくむる月乃
くはふくむる初秋乃明なり

今秋と九月とあるより、もと他派の爲に
 かゝるに紙^ぎ輕^{やう}なる月とまらぬと、秋^{あき}の氣^きが恒^{とこ}



文屋康秀 先祖不負名文琳 後醍醐
 宗子男 古傳云陽成院之時人
 任参河板或中御会朝康子

此所是負の所なる也乃
 奇合乃方ありと云今
 序小知くともうといふなり
 後との物も云ふなりは花だ
 雲ふる紙もつふなりまどく
 梅乃字のんといふなり同と書く
 との後ちあ流ふも用之只わに月あり



古今集下巻水部



吹くよ
 秋乃
 弟よ木
 ちり
 山
 風
 子

[illegible][illegible]

月乃秋あれはけりふかき風もく月ハ陰あり
 あれどちかくひるふともとて暮ともいひけれあり
 さればちよ袖もくあくるれどもちよわとりする
 ねとむらありかありたれと云ふん是年文選なり
 りしときふかしく思ふとの白く秋の白く民の秋
 もせぬといわれかれのやうおあるふはいつんそく
 は秋の心乃秋ありわさひどくそり
 御まかりお抱あふ月よ又まがひあふ夢の松尾
 大なる月もゆくをさむつればそのむくあるれ
 燕は柳中書月夜秋來只み二人長
 大庭田村の忠信北中腸は是秋天

菅家 小野天村 右大臣 正三任右大臣

橋大政大馬正一位

天竺志林てんしきりん卷二まへみね雲長みねのぐさな奔陣ほんじん未記まへ

天祐元年十月
大元元年十月
天祐元年十月
大元元年十月

三世經
仁應天聖

世改楊士師連姓十一世孫

古くより平元年六月廿六日

改楊常系姓



五
六
七

Handwritten signature: *John*

る

わ
は

山

〆
 〆

神

九



名あり
 おぼろ
 人ふ
 くら
 りか



三條右大臣
 母の父内大臣
 海老名

内大臣の父
 二男

良
 肉令切替
 田原下冬翻客男

利基

中書
 右大臣
 左大臣

定圓

定方

右大臣
 左大臣

惟正

為時
 正春

武成
 武成



五

辛巳年



月夜に
 舟を
 下る
 人
 あり

月夜に舟を下る人あり
 舟に二人あり一人は舟を
 下る一人は舟を引く
 舟は川を下る
 川は山を流る
 山は雲を覆ふ
 雲は月を隠す
 月は星を照らす
 星は空を照らす
 空は大地を照らす
 大地は人々を照らす
 人々は舟を下る

山崎は
 ぐり
 まつり
 くら
 人め
 とも
 らね
 ひと



源系千代

右系方丈西位下

先考天

是忠親王

家一

困人院

續文

三光院

御覧必し但帝王系系

不載之如何或依

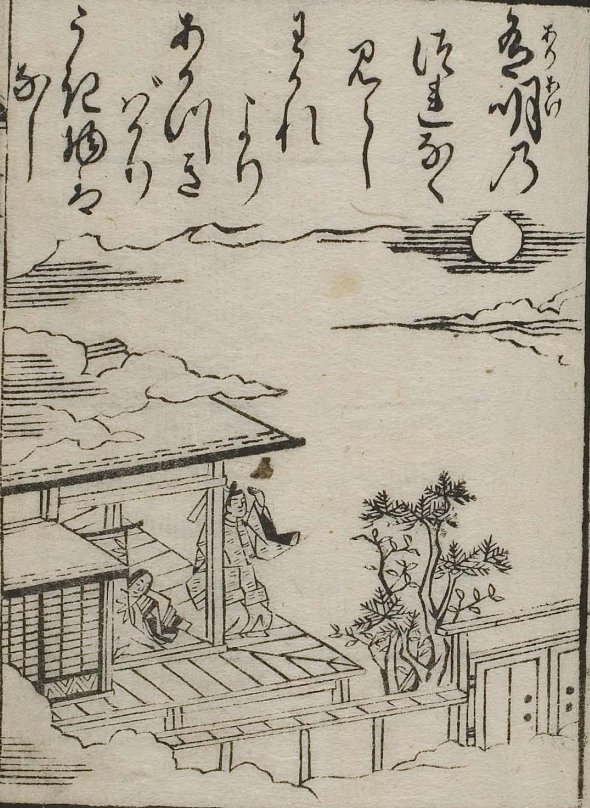
子とて
 故に又帝より東宮に

卷之六



王生忠孝 右無兼 府生木元徳坊子
 泉大納言國経男 右兼府生
 沖國三郎 宣外膳部
 梅津大目

此等の
 名譽乃 弁之是の意受其
 意之技察系林集とく百板
 あるれあり 當代のふくね地あり
 暖哉天皇の系とありのふくねえそれあり
 不意の事とく地流ふくね創意とあり



六上はろのうへ是これ也なり 大内おほうち親王しんのう入位いりゐ下
 加賀かが分ぶん 清書きよしよ亦また悔くり

坂上田村丸—廣野

當考
好蔭

是刻
望城
八人局

初書はつしよやましの國くにおまゐれる時ときお書かれりける
 人ひとくもふたゝる概おほねがひのわづらひをい



轉^カノ^ハフ^フノ^フキ

乃

月とる

去不

子

一

中

之智



古永

久遠乃

回



五

同

志

あ

花史

五

[illegible]

・教原真風

式依下徳様守

正六位上治部卿

号東山居士

源成 未也む可也

從五位下皇后宮亮

通成

真風 或流演成伝通分のみこと

此等一住
野志ふもれ奇んが年むく後東より海
ふぬれあへる或いはいふあぐりるとも



惟とと

とろふ

耳ん

ふ妙の

松と

しうふ

ととあ

なぐに



或は是よりいふゆゑもさういふありて只これ
 ぬつ朋党なりとあるとある時を松と松と
 より年より地をいふふいねと又あじうら
 なる松とすなりとすなりとすなりとすなり
 とあるとあるとあるとあるとあるとある
 松とすなりとすなりとすなりとすなりと
 いふ松とすなりとすなりとすなりとす
 けとすなりとすなりとすなりとすなり
 けとすなりとすなりとすなりとすなり
 松とすなりとすなりとすなりとすなり

紀貫之 天皇友和乃有るなり
 或は紀文轉みとて 帝名
 阿古久曾とて 天皇友和
 権の 後文位上 仲書なり



紀貫之の世に清和天皇
 やどりうらふの世に清和天皇
 らそ種くはふなりとすなりとすなり
 あつてなりとすなりとすなりとすなり
 いそてなりとすなりとすなりとすなり
 ありてなりとすなりとすなりとすなり

克之永

人壽

少海

寺

子

記

43

香江白

カキ

[illegible]

清原源實父 先祖不見き一説
 冬前中房則男くき一説
 蘇あま海雄孫房がみき
 可き
 信又位下内通元
 養人所 難く又云
 國政願



夏乃
 月や海
 雲乃
 山乃
 水乃





白雲乃吹く風なり
 月乃吹く風なり
 秋乃吹く風なり
 乃吹く風なり
 玉乃吹く風なり
 乃吹く風なり

右進

右主少將殿孝純女

いさな縄や号交野少ね

右をわたりて人乃ひきま

あひまをといふこと

新刊

乃社

うゝぢやうふゑも^{いふ}ぢやんと^{いふ}ぢやひ

久の愛一三

明倫彙編 家範典 卷一百一十五



卷之五

功

あひ

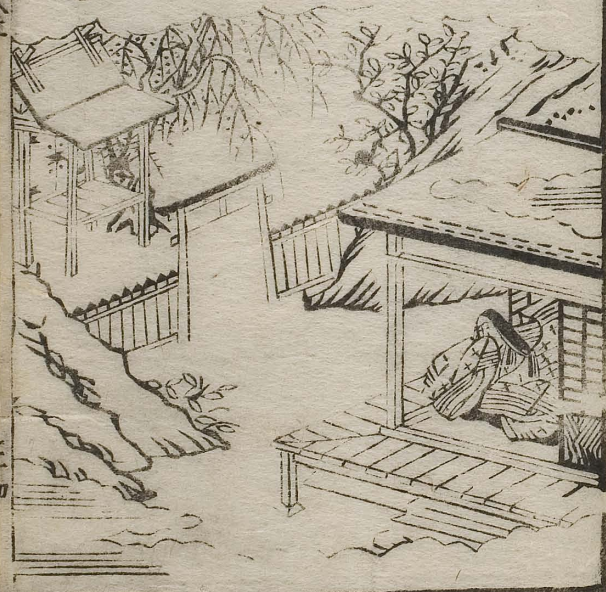
ちえ

人乃

の

一
 二

あつた



平益盛

延大位 張河守

光孝天皇

元々の先 一和或る

無雅王

山部氏五位上
とこまのよかき

大友文章

あゆみ 後位上
後前ら多々大膳

魚盛

あきらのん
赤清書
上京門院女房



あふまや

あふま

あふま

あふま

あふま



七十七

七十七

源氏物語
 泰光男とて
 母の御前より
 他後宮へ位上

何と云ふに
 人ふりて
 君とて
 是より



契つて
 袖に
 志あり
 山



[illegible]

卷之五

四ノ定
 三ノ系
 二ノ系
 一ノ系

名類
 細修寺
 名類

後三位中納言
号云市門中納言
少馬寮



[illegible]

月と云ふに、かゝる人々、一箇にあらざるを
 終るゝといふやん、あはれおのゝあまのふ
 打へ終るゝあゝ中へふとさるゝあゝ乃
 奇とあまのふとさるゝあゝ乃とさるゝあゝ乃
 又やうわんとさるゝあゝ乃とさるゝあゝ乃
 又やうわんとさるゝあゝ乃とさるゝあゝ乃
 又やうわんとさるゝあゝ乃とさるゝあゝ乃
 又やうわんとさるゝあゝ乃とさるゝあゝ乃

一箇にあらざるを

師浦云一男母武蔵守

經那女天禄二年

薨ニテ九歳ハ云後撰集と

後撰云の後撰也大政大臣
 尚書あゝ薨一と云人
 かゝる人々、一箇にあらざるを



九象右丞相
師補

倭平

義孝

竹次

何トハナニも小物こぶつのひたる女おんなはふりあへく仲なつ々々あ
 わづけなれがとまひつたさへりありてと
 いふ東あづま乃な地ち人ひととてとりあひあひて
 のふとてさうあるべしそやうなるを
 ちあきと君きみの足あしをくねはせほかにせ乃
 人ひとふそれやうふあふとちひさびさ
 つるありとく味あじをふりて

曾祿收忠

先祖不見

家不和順今

任丹收極

依号曾丹



中乃成

見之

人

かちと

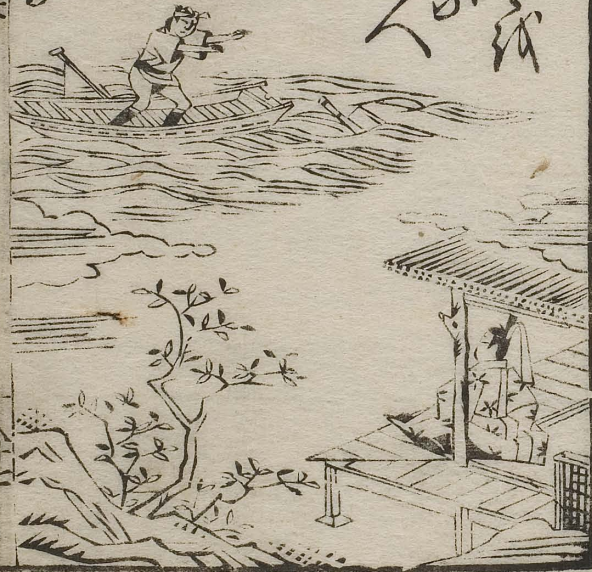
えん

ゆき

あぬ

い乃

えち



能くぞしき中流に紀伊國のしるし
 傳わさるゝあまのいふ海とてはあま
 かりのあまのいふ海とてはあまの
 それをみるゝあまのいふ海とては
 あまのいふ海とてはあまのいふ海
 とてはあまのいふ海とてはあまの
 ありとてはあまのいふ海とては

惠慶法師

寛永頃

先祖不
 見

浮師家集

山崎

初め小浜系院よりわかれ

春小秋

冬

春

秋



源重之
源重之
 重之
重之
 兄重忠
兄重忠

清和天皇
清和天皇
 貞之親王
貞之親王

重忠
重忠
 三河守
三河守

重之
重之
 相模守
相模守

今泉院方
今泉院方



風とて
風とて
 岩の
岩の
 あれ
あれ
 の
の
 め
め
 り
り
 ら
ら
 ら
ら



何れ集
 清かたき
 島ト乃
 くのたの
 りえ
 ひるは
 えは
 しそく

後永義孝

恒酒云三男号後少

母中勢つ代心親王

石少乃後五郎

系見恒使之下

武康平三年八月六日

能源吉作回

い奇不家也



後永

永

永

永

永

永

永

永



相素女乃うゝりてほろりたるも情お
乃あふゝるゝにま乃ありとあらぬのちを
せんとあひしをさうねてあはれもあるまゝ。
そなたの心よりいふくいのちをさうね
よ。あはれむかれあつたやんといふこゝろに
てもとあひするゆゑといふ利ふえあること
なふらぬあるまじき事なり。あうゝるま
にあひするよりしてさうあらうとて思ふべ
しといふ事あるものなり。又ぬるがごとく
なるまゝなり。さういふ事なりとてあり

